

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和2年3月30日（月）～令和2年4月5日（日）〔令和2年第14週〕の感染症発生状況

第14週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 2) 感染性胃腸炎 3) 突発性発しんでした。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は、2.08人と前週（2.95人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は、1.92人と前週（2.14人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
突発性発しんの定点当たり患者報告数は、0.35人と前週（0.27人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



自宅療養時の健康・感染管理～新型コロナウイルス感染症～

3月末より、首都圏を中心に新型コロナウイルス感染症の患者報告数が急増しています。地域での感染拡大により患者数がさらに増加した場合、医療機関の病床数が足りなくなり、全ての患者の方に入院していただくことができない可能性があります。症状の軽い方は、自宅で療養をしていただくこともありますので、御自身や家族内での健康・感染管理を心がけましょう。

自宅療養時等の健康管理・感染管理

健康管理

「患者」⇒1日2回健康状態を確認し、1日1回保健所支所に連絡する
「同居者」⇒自分の健康状態を確認し、症状（発熱、咳、鼻水など）がある場合は保健所支所に連絡する

居住環境

- 患者は可能な限り個室で過ごす
- 家族が患者の部屋に出入りする際は、お互いマスクを着用し、部屋は適宜換気する
- 患者専用のタオルや食器を用意する
- 患者は最後に入浴する

同居者の感染管理

- 患者と接する人を限定し、お互いマスクを着用する
- マスクの外側には触れないように注意する
- 患者とは十分な距離を保ち、患者の部屋に出入りしたり汚物に触れた際は、手洗いと手指消毒を行う

清掃

- 患者が触れた場所や物は、家庭用アルコール除菌剤などを用いて1日1回以上拭く
- 衣類やシーツなどは通常の洗濯用洗剤で洗濯し、しっかり乾燥させる

川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問い合わせ先） 044-276-8250
令和2年4月7日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和2年4月6日（月）～令和2年4月12日（日）〔令和2年第15週〕の感染症発生状況

第15週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 2) 感染性胃腸炎 3) 突発性発しんでした。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は、1.59人と前週（2.08人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は、1.38人と前週（1.92人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。
突発性発しんの定点当たり患者報告数は、0.38人と前週（0.35人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。

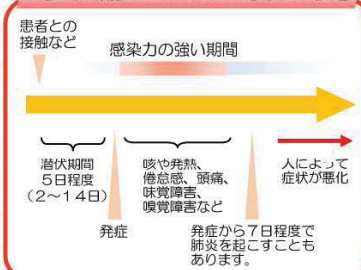


新型コロナウイルス感染症の現状～一般的な症状と経過～

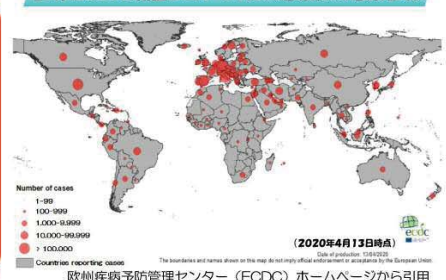
新型コロナウイルス感染症は、全世界で184万人を超える症例及び11万人を超える死亡例が報告されています（令和2年4月14日時点）。国内でも都心部を中心に徐々に報告数が増加しています。

潜伏期間は概ね5日程度で、発熱や咳、倦怠感、頭痛などで発症することが多く、特徴的な症状はありません。ただし、他のウイルス性疾患と同様に、味覚障害や嗅覚障害がみられる（発症者の約3分の1）という報告もあります。発症後は5日～7日程度で徐々に症状が悪化し、肺炎などを併発する方もいます。基礎疾患をお持ちの方や高齢者の方は特に注意が必要です。

典型的な新型コロナウイルス感染症の経過



世界における新型コロナウイルス感染症の感染者数



川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問い合わせ先） 044-276-8250
令和2年4月14日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和2年4月13日（月）～令和2年4月19日（日）〔令和2年第16週〕の感染症発生状況

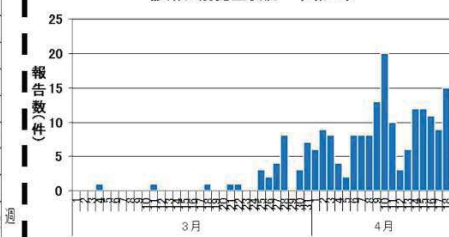
第16週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 2) 感染性胃腸炎 3) 突発性発しんでした。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は1.38人と前週（1.59人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.30人と前週（1.38人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.30人と前週（0.38人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。



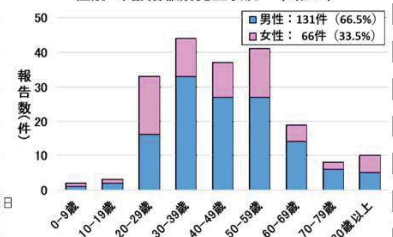
川崎市における新型コロナウイルス感染症の発生状況

川崎市における新型コロナウイルス感染症の発生状況は、令和2年第10週（3月2日～3月8日）に初めて市内医療機関から報告があり、その後令和2年第16週（4月13日～4月19日）までに計197件の患者が報告されています。年齢階級別では20歳代～50歳代が全体の78.7%と多く、60歳以上は18.8%、20歳未満はわずか2.5%で、性別では男性が全体の66.5%を占めました。感染経路は、女性は家庭内感染が多く、男性は勤務先や会食の場での曝露が原因と考えられる感染が多くみられました。外出先から帰宅した際は十分に手を洗い、感染予防に努めましょう。

川崎市における新型コロナウイルス感染症の
診断日別発生状況－令和2年－



川崎市における新型コロナウイルス感染症の
性別・年齢階級別発生状況－令和2年－



※クルーズ船関連及び疑似症患者を除く。

※クルーズ船関連及び疑似症患者を除く。

川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域みまもり支援センター
(問い合わせ先) 044-276-8250
令和2年4月21日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和2年4月20日（月）～令和2年4月26日（日）〔令和2年第17週〕の感染症発生状況

第17週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 突発性発しんでした。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は0.86人と前週（1.30人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.59人と前週（1.38人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。
突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.30人と前週（0.30人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。

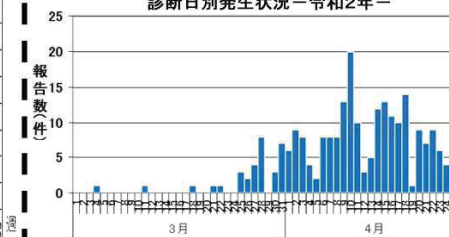


ゴールデンウィークはステイホームで！～新型コロナウイルス感染症～

川崎市における新型コロナウイルス感染症の患者報告数は、令和2年3月末から増加していましたが、4月中旬以降は徐々に減少しており、市民の皆様の御協力による効果が現れているものと考えられます。しかし、ゴールデンウィークを迎え、帰省や旅行等で人の移動が増えると、再び感染者数が増加する恐れがあります。

可能な限り不要不急の外出を控え、御自身と御家族を守りましょう。

川崎市における新型コロナウイルス感染症の
診断日別発生状況－令和2年－



※市内医療機関からの報告数
※クルーズ船関連及び疑似症患者を除く。

ゴールデンウィークの過ごし方

①帰省・旅行を控える！

ビデオ通話などを活用しましょう



②近場の外出でも密集・密接を避ける！



ジョギングは少人数で公園・すいている時間・場所で

③買物は少人数・すいている時間に！



通販や飲食持ち帰り、宅配も活用しましょう

川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域みまもり支援センター
(問い合わせ先) 044-276-8250
令和2年4月28日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和2年4月27日（月）～5月3日（日）〔第18週〕及び5月4日（月）～5月10日（日）〔第19週〕の感染症発生状況

第18週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 突発性発しんでした。
第19週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 流行性角結膜炎 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
第19週はゴールデンウィークで、多くの医療機関が休診であったため、ほとんどの疾患で報告数が減少しています。



気を緩めずに！！新型コロナウイルス感染症対策

川崎市における新型コロナウイルス感染症の報告数（疑似症患者は除く。）は、令和2年第15週（4月6日～4月12日）に70件となりピークを迎えましたが、その後徐々に減少し、第18週（4月27日～5月3日）は25件、第19週（5月4日～5月10日）は2件となりました。そのうち第18週は17件、第19週は1件が院内感染関連事例であり、原因不明の市内発生事例は大幅に減少しています。

再び患者数が増加することがないよう、引き続き手洗いなどの感染予防対策を徹底するとともに、人との不要な接触機会を減らしましょう。

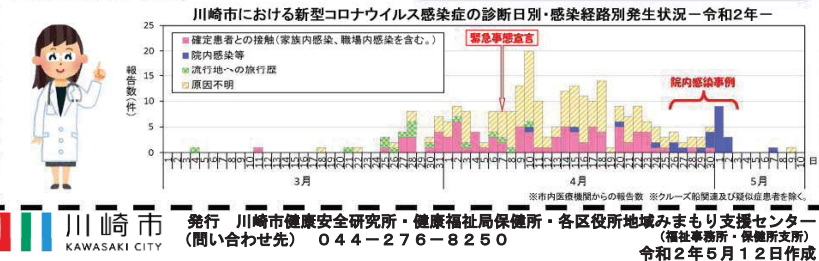
新型コロナウイルス感染症の相談・受診の目安が変更されました

令和2年5月8日から帰国者・接触者相談センター等への相談及び受診の目安が変更されました。

御相談いただく目安

- 少なくとも以下のいずれかに該当する場合には、すぐに御相談ください。（これらに該当しない場合の相談も可）
- ✓ 息苦しさ（呼吸困難）、強いだるさ（倦怠感）、高熱などの強い症状のいずれかがある場合
- ✓ 重症化しやすい方[※]で、発熱や咳などの比較的軽い風邪症状がある場合
- ※ 高齢者、基礎疾患、心不全、呼吸器疾患などの基礎疾患がある方、透析を受けている方、免疫抑制剤や抗がん剤などを用いている方
- ✓ 上記以外の方で発熱や咳など比較的軽い風邪症状が続き、症状が4日以上続く場合は必ず御相談ください。

妊婦の方についても、重症化しやすい方と同様に、症状がみられた場合は、早めに帰国者・接触者相談センター等に御相談ください。



今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和2年5月11日（月）～令和2年5月17日（日）〔令和2年第20週〕の感染症発生状況

第20週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 突発性発しんでした。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.14人と前週（0.62人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.46人と前週（0.30人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.38人と前週（0.22人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。



室内での感染予防対策！～新型コロナウイルス感染症～

新型コロナウイルス感染症の主な感染経路は飛沫及び接触感染です。
クルーズ船における新型コロナウイルスの環境汚染調査報告によると、感染した人が滞在した部屋では、浴室内トイレの床（39%）、枕（34%）、電話機（24%）、机（24%）、TVリモコン（21%）などでウイルスの検出率が高く、感染した人の顔に近い部分やよく手が触れる箇所は汚染されやすいことが判明しました。また、部屋の空気中からはウイルスは検出されず、共有部分で検出されたのは廊下排気口の1か所のみでした。
環境からの感染を防ぐためには、日常的な手指衛生を心がけるとともに、一般的な感染症と同様にこまめな清掃や消毒を行うことが重要です。



川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問い合わせ先） 044-276-8250
令和2年5月19日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和2年5月18日(月)～令和2年5月24日(日)〔令和2年第21週〕の感染症発生状況

第21週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 突発性発しんでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.30人と前週(1.14人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.46人と前週(0.46人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.30人と前週(0.38人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



緊急事態宣言解除後のワクチン接種はお早めに！

令和2年5月25日に国内の新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が解除されました。従来の生活が戻り学校などが再開されると、人との接触が増えるため、ウイルスや細菌などに感染するリスクが高くなります。中には感染力が強く、り患すると重症化する疾患もありますが、ワクチンを接種することで予防できるものもたくさんあります。

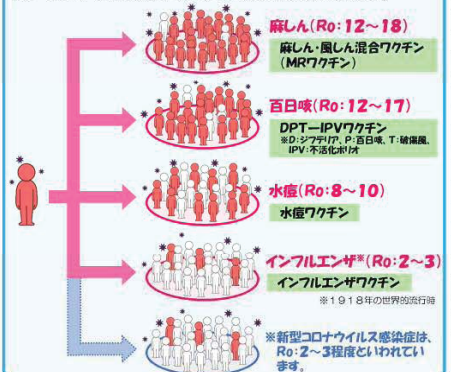
外出自粛などの影響で定期予防接種が済んでいないお子さんは、早めに必要なワクチン接種を済ませましょう。



この他にも定期予防接種として、ヒブワクチン、肺炎球菌ワクチン、BCGワクチン、B型肝炎ワクチン、日本脳炎ワクチン、ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチンなどがあります。

ワクチンで予防可能な疾患の感染力の例

基本再生産数(Ro)とは、1人の患者が平均何人の人に感染させるかを表す数字です。例えば、麻疹、百日咳、水痘のRoは、インフルエンザと比較すると非常に高いですが、ワクチンを接種することで感染を予防できます。



川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所) (問い合わせ先) 044-276-8250 令和2年5月26日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和2年5月25日(月)～令和2年5月31日(日)〔令和2年第22週〕の感染症発生状況

第22週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 突発性発しんでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.22人と前週(1.30人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.59人と前週(0.46人)から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.38人と前週(0.30人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



食品の取扱いに御注意を！～細菌性食中毒～

食中毒の原因は、細菌やウイルスなどですが、気温や湿度が高くなるとカンピロバクターや腸管出血性大腸菌(O157、O111など)、黄色ブドウ球菌などの細菌を原因とする食中毒が増加します。

今年は、5月下旬以降、気温や湿度が平年より高い日が続いています。川崎市では、今年度に入ってから細菌性食中毒の発生はありませんが、今後気温の上昇とともに増加する可能性があります。

食中毒を防ぐため、手洗いを徹底するとともに、購入後の食品は適切に保存し、早めに食べるなど、食品の取扱いには十分注意しましょう。

全国における月別食中毒発生状況(令和元年)



食中毒の3原則

- 1 つけない
手洗いの徹底
- 2 増やさない
調理器具の使い分け
低温で保存
- 3 やっつける
十分な加熱
器具の消毒

川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所) (問い合わせ先) 044-276-8250 令和2年6月2日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和2年6月1日（月）～令和2年6月7日（日）〔令和2年第23週〕の感染症発生状況

第23週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 突発性発しんでした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.38人と前週（1.22人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.65人と前週（0.59人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
 突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.35人と前週（0.38人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



学校での感染予防対策～新型コロナウイルス感染症～

川崎市では、令和2年第23週（6月1日～6月7日）までに新型コロナウイルス感染症の報告が291件（疑似症患者は除く。）ありました。年齢階級別では、0～9歳が1.0%、10～19歳が2.1%と小児の割合が非常に低く、家族など人々との濃厚接触による感染がほとんどでした。

市内の市立学校では、令和2年6月1日から分散登校が開始され、6月15日からは通常登校になります。学校における感染リスクを下げるためには、教室等での十分な換気と咳エチケットが重要です。適切な距離を保つことが難しい場合にはマスクを着用しましょう。また、給食の提供も開始されますので、食前食後の手洗いも忘れないようにしましょう。

川崎市における新型コロナウイルス感染症の



手洗いの6つのタイミング



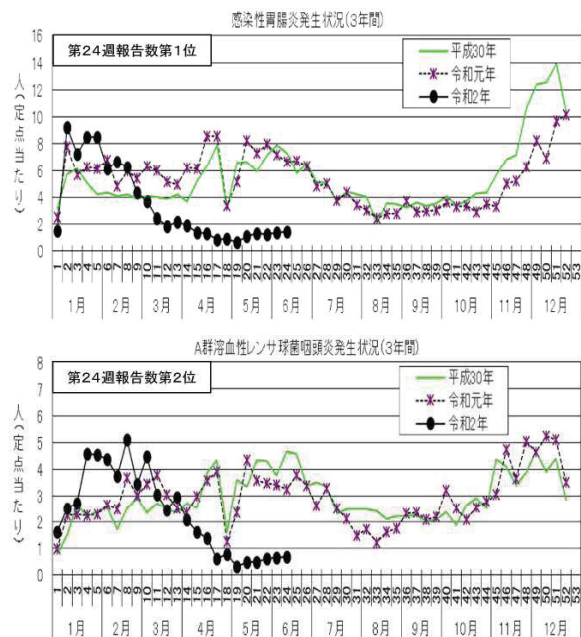
川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問い合わせ先） 044-276-8250
 令和2年6月9日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和2年6月8日（月）～令和2年6月14日（日）〔令和2年第24週〕の感染症発生状況

第24週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 突発性発しんでした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.43人と前週（1.38人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.68人と前週（0.65人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
 突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.46人と前週（0.35人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。



知っていますか？～狂犬病～

狂犬病は、狂犬病ウイルスを保有する動物に咬まれることにより感染する、人と動物の共通感染症です。発症した場合、効果的な治療法はなく、ほぼ100%の方が亡くなります。日本やオーストラリア、ニュージーランドなどの一部の国々を除き、全世界で発生がみられており、我が国では令和2年5月に14年ぶりに輸入事例の発生がありました。

狂犬病の流行地域に渡航する場合であって、動物との接触が避けられない、又は近くに医療機関がないような地域に長期滞在する方は、渡航前のワクチン接種を検討ください。

世界における狂犬病の発生状況



狂犬病とは

【感染経路】

感染した動物*に咬まれ、唾液中に排出されるウイルスが傷口から体内に侵入することにより感染
 *アジアでは主に犬。他にキツネ、アライグマ、コウモリなど

【潜伏期間】

通常1～3か月程度

【症状】

強い不安感、一時的な錯乱、水を見ると首（頸部）の筋肉がけいれんする（恐水症）、冷たい風でも同様（恐風症）、高熱、麻痺、運動失調、全身けいれん、呼吸障害等

【治療方法】

効果的な治療法なし
 ※万一渡航先で動物に咬まれた場合は、速やかに現地医療機関を受診し、傷の手当てとワクチン接種

【予防方法】

ワクチン接種

川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問い合わせ先） 044-276-8250
 令和2年6月16日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和2年6月15日（月）～令和2年6月21日（日）〔令和2年第25週〕の感染症発生状況

第25週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 突発性発疹でした。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.73人と前週（1.43人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.65人と前週（0.68人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
突発性発疹の定点当たり患者報告数は0.41人と前週（0.46人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



移動に際しての注意点～新型コロナウイルス感染症～

令和2年6月19日に「都道府県をまたぐ移動の自粛要請」が全面的に解除されました。しかし、国内では、新型コロナウイルス感染症の患者が報告されている地域もあるため、公共交通機関などを利用する場合はマスクを着用し、共用部分に触れた際は手洗い・手指消毒を徹底しましょう。

地域の流行状況に注意し、外出など移動の前には体温測定や健康チェックを行い、発熱・風邪症状などがみられる場合は無理をせず自宅で療養しましょう。

移動に際して注意するポイント

- ◆ 地域の流行状況を確認する。
- ◆ 流行している地域からの移動、流行している地域への移動は控える。
- ◆ 健康状態をチェックし、体調が悪い時は外出や移動を控える。
- ◆ 発症したときのため、誰とどこで会ったかをメモにする。接触確認アプリの活用も。

日々の症状チェックリスト

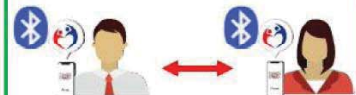
以下の症状を参考に確認しましょう。

- | | |
|---------------------------------|------------------------------------|
| ☐ 発熱 | ☐ 倦怠感 |
| ☐ 副鼻腔の痛み | ☐ のどの痛み |
| ☐ 咳 | ☐ 頭痛 |
| ☐ 嗅覚異常 | ☐ 呼吸困難 |
| ☐ 痰 | ☐ 関節痛または筋肉痛 |
| ☐ 鼻づまり | ☐ 下痢 |
| ☐ 寒気 | ☐ 嘔吐 |

NEJM, "Challenges of 'Return to Work' in an Ongoing Pandemic,"より抜粋

接触確認アプリ(COCOA)とは？

1メートル以内、15分以上接触した可能性



新型コロナウイルス感染症の感染者と接触した可能性について、通知を受け取ることができる、スマートフォンのアプリです。



川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域みまもり支援センター
(問合せ先) 044-276-8250
令和2年6月23日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和2年6月22日（月）～令和2年6月28日（日）〔令和2年第26週〕の感染症発生状況

第26週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 突発性発疹でした。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.73人と前週（1.73人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.62人と前週（0.65人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
突発性発疹の定点当たり患者報告数は0.57人と前週（0.41人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。

★大腸菌O157★
イーコリ



夏季に増える感染症～腸管出血性大腸菌感染症～

腸管出血性大腸菌感染症は、強い毒素を産生する大腸菌（O157、O26、O111など）を原因とする疾患です。激しい腹痛とともに頻回の水様性下痢、血便などを呈し、汚染された食品や患者の便を介して感染します。

川崎市では、今年は、令和2年第26週（6月22日～6月28日）までに計7件の報告がありました。例年、6月～9月にかけて気温の上昇とともに患者数が増加しますので、食品の適切な取り扱いや手洗いなど予防対策を徹底しましょう。

腸管出血性大腸菌感染症とは？

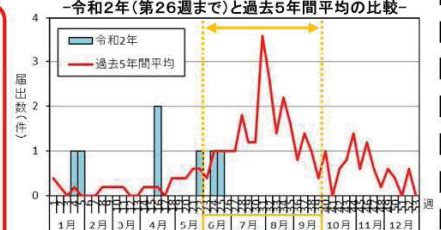
- 【感染経路】
 - 菌に汚染された食品などによる経口感染
 - 患者の便を介した二次感染

- 【潜伏期間】
 - 1～14日間（平均3～5日間）

- 【主な症状】
 - 激しい腹痛、頻回の水様性下痢や血便など

- 【予防対策】
 - 生野菜は流水でよく洗う。
 - 肉類は中心部まで十分に加熱する。
 - 手洗いや消毒を徹底する。

川崎市における腸管出血性大腸菌感染症発生状況
～令和2年（第26週まで）と過去5年間平均の比較～



乳幼児や高齢者は溶血性尿毒症候群（HUS）などの重症合併症を起こすことがあります。
激しい腹痛や血便がある場合には、直ちに医療機関を受診しましょう。



川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域みまもり支援センター
(問合せ先) 044-276-8250
令和2年6月30日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和2年6月29日（月）～令和2年7月5日（日）〔令和2年第27週〕の感染症発生状況

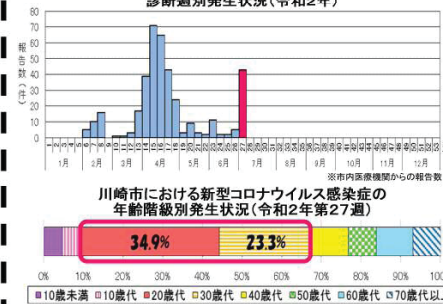
第27週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 2) 感染性胃腸炎 3) 突発性発しんでした。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2, 14人と前週（0, 62人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1, 81人と前週（1, 73人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。
突発性発しんの定点当たり患者報告数は0, 62人と前週（0, 57人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



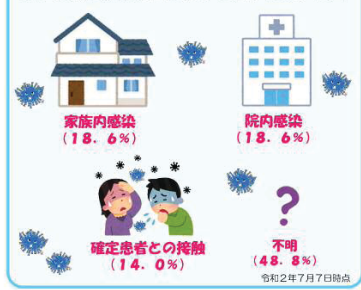
新型コロナウイルス感染症の報告数が急増しています！

現在、都心部を中心に新型コロナウイルス感染症の報告数が急増しています。
川崎市においても、令和2年第27週（6月29日～7月5日）の報告が43件と、前週の5件から大幅に増加しました。年齢階級別では20～30歳代が全体の58.2%を占め、推定感染経路別では「家族内感染」及び「院内感染」が各18.6%、「確定患者との接触」が14.0%、「不明」が48.8%でした。
感染患者と何らかの接触があった事例が多いため、御自身の行動に注意するとともに、発熱や咳などの症状がみられる場合は外出を控え、医療機関などに相談するようにしましょう。

川崎市における新型コロナウイルス感染症の診断週別発生状況（令和2年）



市内における新型コロナウイルス感染症の推定感染経路別発生状況（令和2年第27週）



川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先） 044-276-8250
令和2年7月7日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和2年7月6日（月）～令和2年7月12日（日）〔令和2年第28週〕の感染症発生状況

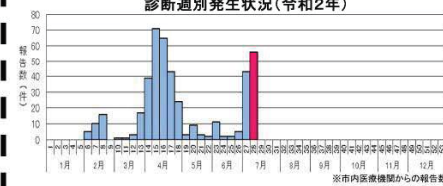
第28週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 2) 感染性胃腸炎 3) 突発性発しんでした。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2, 03人と前週（2, 14人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2, 00人と前週（1, 81人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。
突発性発しんの定点当たり患者報告数は0, 49人と前週（0, 62人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



重症化リスクの高い方は御注意を！～新型コロナウイルス感染症～

川崎市における令和2年第28週（7月6日～7月12日）の新型コロナウイルス感染症の報告数は56件と、第27週（6月29日～7月5日）の43件からさらに増加しました。年齢階級別では20～30歳代の割合が全体の62.5%と依然として高いものの、第27週以降70歳代以上の報告も増加しています。
高齢者や基礎疾患のある方は重症化のリスクが高いため、マスクの着用や手洗いなどの基本的な感染対策を特に徹底しましょう。

川崎市における新型コロナウイルス感染症の診断週別発生状況（令和2年）



新型コロナウイルス感染症の重症者・死亡者の割合

令和2年7月8日18時時点											
重症者割合（％）											
10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代以上	0.0	0.0	0.0
0.0	0.0	0.0	0.8	0.8	1.4	13.1	7.0	3.3			
死亡率（％）											
10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代以上	0.0	0.0	0.0
0.0	0.0	0.0	0.1	0.5	1.1	4.9	14.6	28.7			

重症者割合：年齢階級別にみた重症患者数の入院患者数に対する割合
死亡率：年齢階級別にみた死亡患者数の重症患者数に対する割合
厚生労働省HP「新型コロナウイルス感染症の国内発生動向」より抜粋

60歳代以上では重症者割合、死亡率ともに高くなるため、感染防止対策を徹底することが重要です。

川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先） 044-276-8250
令和2年7月14日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和2年7月13日（月）～令和2年7月19日（日）〔令和2年第29週〕の感染症発生状況

第29週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 流行性角結膜炎でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2,00人と前週（2,00人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は1,81人と前週（2,03人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。

流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0,67人と前週（0,22人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。



新しい旅のエチケット～感染を拡げないために～

夏休みを控え、旅行や帰省などを計画されている方もいらっしゃると思いますが、大都市を中心に新型コロナウイルス感染症の発生が続いている状況です。

基本的な旅のエチケットとして、旅行を計画する際は行先の流行状況を確認し、旅行中は手洗い・手指消毒を心がけましょう。また、計画には余裕をもち、混んでいる場所はなるべく避けるようにしましょう。宿泊先ではこまめに部屋を換気し、新鮮な空気を取り込むことも大切です。

感染を拡げないために、3密が発生する場や施設等を避けて、新しい旅のエチケットを心がけましょう。

新しい旅のエチケット



観光関連事業者により、旅行時に感染防止のために留意いただきたい事項が「新しい旅のエチケット」としてまとめられました。

観光庁「新しい旅のエチケット」より抜粋



川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域みまもり支援センター（問合せ先） 044-276-8250

令和2年7月21日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和2年7月20日（月）～令和2年7月26日（日）〔令和2年第30週〕の感染症発生状況

第30週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 突発性発しんでした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1,62人と前週（2,00人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は1,41人と前週（1,81人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。

突発性発しんの定点当たり患者報告数は0,78人と前週（0,51人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。



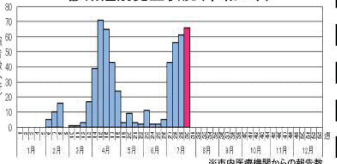
新型コロナウイルス感染症の流行と感染力

川崎市における令和2年第30週（7月20日～7月26日）の新型コロナウイルス感染症の報告数は、66件と5週連続で増加しています。

新型コロナウイルス感染症は、一般的に飛沫や接触感染により感染し、患者と濃厚接触した場合は約5%が感染すると報告されています。接触時間や接触の程度により感染のリスクは異なり、家族内では10～40%、一緒に食事をした場合は約7%、買い物などですれ違った場合は0,6%といわれています。

換気の悪い空間や狭い場所では、さらに感染のリスクが高まるので注意しましょう。

川崎市における新型コロナウイルス感染症の診断週別発生状況（令和2年）



新型コロナウイルス感染症の二次感染力



川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域みまもり支援センター（問合せ先） 044-276-8250

令和2年7月28日作成